

日本学生航空連盟について

日本学生航空連盟は昭和5年（1930年）飛行機熱が若者に芽生え、大学生も操縦をおぼえ出したのを機に、朝日新聞社が呼びかけて結成。最初は飛行機の訓練だけだったが、昭和10年からグライダーも加わった。

2人乗り単発機でヨーロッパまでの飛行や、羽田や伊丹の飛行場では航空選手権を開催。グライダーでは霧ヶ峰高原での訓練や、プライマリー、セカンダリー、ソアラーの量産をはかって全国の各学校へ配置するなど、愛好者を急増させた。

東京、関西をはじめ、東海、東北、九州、北海道に支部ができ、当時の中等野球（現在の全国高校野球）に匹敵する大学生の全国スポーツ組織として広がった。

戦争で活動を中断。戦後は航空空白期のあと昭和27年、再発足した。純粋なスポーツ団体として、グライダーを中心に、団体訓練を通して心身鍛練をはかり、航空文化の発展をめざすのを目的に、昭和34年（1959年）に文部省（当時）所管の財団法人として認可を受け、現在に至っている。

関東、東海、関西、西部の4支部に57大学、1専門学校、1高校が加盟、約10,000人のOB・OGがいる。

妻沼（埼玉県熊谷市 利根川河川敷）、木曾川（岐阜県海津市 木曾川河川敷）、久住（大分県竹田市久住高原）、白川（熊本県熊本市 白川河川敷）の4つの専用滑空場と、福井空港（福井県坂井市）を利用している。ウインチや飛行機による曳航方式で、年間約700合宿、約30,000回の飛行実績があり、これは国内グライダー飛行回数の約80%を占め、わが国最大のグライダー団体である。

朝日新聞社は現在も人的、経済的な援助をしている。東京本社内に本部事務局を置き、社員を配置して連絡事務に当たらせている。理事、評議員には航空関連会社社長や加盟大学航空部長（教授）らが就任。連盟職員のグライダー教官は5人、ほかにOB指導員が約270人いる。

訓練学生は技量が上達すると、自然の力である上昇気流をつかみ、高く上がる「滑翔」の魅力をおぼえる。また気象も学び、国家試験を受けて自家用操縦士の資格をとり、全日本学生グライダー競技選手権大会に出場し、国際滑空記章（銀賞では滞空5時間、獲得高度1,000メートル、50キロ距離飛行）を目指す。

自家用操縦士の国家試験については、平成元年3月、運輸省（当時）から本連盟が航空従事者の養成施設に指定され、養成課程を修了した者には実地試験が免除されることになった。平成2年には、本連盟がFAI（国際航空連盟）より、オナラリー・ディプロマを受賞した。

まさに「大空を飛ぶたい」という、人類太古からの夢の実現である。

日本学生航空連盟の事業概況

2009年 11月 現在

1. 名称	財団法人 日本学生航空連盟
2. 資本金	基本財産基金 13,858,475円
3. 設立年月日	昭和5年4月28日 [文部省（当時）財団法人認可 昭和34年4月1日 設立]
4. 役員数	理事 20人 評議員 52人

5. 従業員数	職員 5人
6. 支 部	各地に次の支部を置く 関東支部(東京) 東海支部(名古屋) 関西支部(大阪) 西部支部(福岡)
7. 加盟大学数	59校(大学57校、1専門学校、高校1校)
8. 加盟学生数	約700名
9. 年 商 高	収益事業なし
10. 事業内容	(1) 学生、生徒に対する航空機操縦技術の研修 (2) 航空に関する研究会、講習会および展覧会等の開催 (3) 加盟大学その他学生、生徒の航空団体の事業に対する援助 (4) 日本学生航空競技会の開催および国際航空競技会への参加 (5) 機関誌の刊行 (6) その他

日本学生航空連盟の概要

〔概要〕

支 部	関東、東海、関西、西部
加 盟	59校、約700名
滑空場	妻 沼(埼玉県熊谷市) 木曾川(岐阜県海津市) 久 住(大分県竹田市) 白 川(熊本県熊本市)
空 港	福 井(福井県坂井市)
合宿回数	年間 約700回
総飛行回数	年間 約30,000回
滑空機	117機
ウインチ	12台
自家用操縦士	54人(08年)
操縦教育証明	7人(08年)
O B	約10,000人

〔会議〕

理 事 会
評 議 員 会
航空部長会
教職員会議
教官会議
支部運営委員会
指導員会議
中央学生委員会
支部学生委員会
支部学生専門委員会